



第37号

発行  
あわら警察署  
少年警察協働員会  
(あわら警察署内)

### 「地域の宝」子どもたちを支えるために

あわら警察署少年警察協働員会会長

北浦 博美

私たち少年警察協働員会は、少年の非行防止や健全育成のために、警察や学校、地域の皆様と連携しながら、日々活動を続けております。  
昨年も街頭補導や登下校見守り、地域行事での啓発活動、「いかにおすし」の防犯教室などの活動を通じて、子どもたちが安全で安心して日々を送れるよう取り組んでまいりました。

毎年恒例の「防犯ポスター・作文コンクール」においては、今回も多くの作品の応募を得ることが出来ました。「このコンクールは、子どもたちが「防犯」について意識し、自分で学ぶことで、犯罪に手を染めたり、巻き込まれたりすることを防ぐ事を趣旨としております。」「尽力頂いた、各学校の先生方、関係者の方々に深く感謝いたします。」

また、昨年の視察研修では、「みかへの塔」の映画で知られている、修徳学院を見学いたしました。院長のお話や、入所している少年達の姿から、学び・感じ得ることが多く、毎回ですが、意義のある活動であり、今後の取組に生かしたいと思っております。

子どもたちを取り巻く環境は、年々大きく変化しています。SNSやネット上のトラブル、家庭・地域社会・学校での悩みなど、私たち大人が気づきにくい問題も増えています。だからこそ、地域全体で子どもたちを見守り、声をかけ、支えていくことが重要だと感じています。

### 令和七年度

#### あわら地区防犯ポスター・作文コンクール

##### 防犯作文の部

###### 【最優秀賞 中学生の部】

###### 「私たちに出来ること」

芦原中学校2年 川端 里奈

二、三年、若者の非行や犯罪が社会問題としてよく話題になります。しかし、それを若者だけの責任にせず、大人や社会全体で支えていく必要があると私は感じています。非行は本人だけの問題ではなく、家庭や学校、地域、社会全体が連携して解決していくべき複雑な課題です。私たち一人ひとりが問題の重要性を理解し、積極的に関わっていくことが求められていると考えています。

私は非行や犯罪に直接関わったことはありませんが、ニュースや地域でそうした話を聞くと、非行が決して遠い話ではないと感じます。例えば、友達に流されて悪い習慣に陥ってしまったたり、軽い気持ちでルールを破ってしまったたりする若者が多くいると知ると、「自分は大丈夫」と思いたくても、実はすぐそばに問題があることを気づかされ、不安になります。最初は小さな悪ふざけのつもりが、いつの間にか大きな問題へと発展してしまうことが多いのです。

非行を「思春期の一時的な過ち」として軽く見てしまおうと、非行問題の根本的な解決に至りません。そうした甘い見方が非行の再発を招き、被害を広げてしまうこともあるのではないのでしょうか。非行は本人だけの責任ではなく、大人や社会全体の責任でもあると思います。問題を放置すれば、悪い影響は連鎖し広がり続けてしまいます。

だからこそ、私たち若者も自分の行動が周囲や社会にどんな影響を与えるかを意識し、責任感を持つ



芦原小 4年 佐々木陽翔さんの作品

私たちの活動は非常に地味ですが、「地域の宝」である子どもたちを支えるため、今後も地域の皆様と連携し、常に温かい心で目配り気配りをしながら活動してまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



大阪府立修徳学院 研修旅行



金津東小2年 山口音真さんの作品

ことが大切だと思えます。そして、困っている人々を見捨てず、支え合う強さも必要だと思えます。誰かが困っている時に助け合うことが、非行の連鎖を防ぐ一歩になるはずではないのでしょうか。

また、学校や地域、家庭が協力し合って、子どもたちと向き合える環境をつくることも必要であると考えています。例えば、地域の見守り活動や学校での相談体制の充実など、日常的な支えが子供たちにとって大きな安心となるのではないのでしょうか。防犯活動だけでなく、問題の原因にしっかりと向き合い、真剣に取り組む姿勢が子どもたちにも求められていると思えます。

さらに、私たち自身も、「どうすれば非行を防げるか」という視点を持って日々を過ごすことが重要だと思えます。例えば、友人の変化に気づいた時に声をかけたり、悩みを抱える同世代の話を丁寧に聞いたりすることも、小さな支援として大きな意味を持ちます。SNSなどの影響で孤立を感じやすい今の時代だからこそ、直接的なつながりや温かい言葉が力になるはずなのです。

私は、非行や犯罪を決して他人事ではないと思っています。無関心でいることは、問題を悪化させるだけです。未来をより良くするために、一人ひとりが責任を持ち行動することが大切だと思います。非行のない社会は、一人ひとりの思いやりと協力の積み重ねによって築かれるものだと思っています。

### 「青少年健全育成について」

あわら警察署長

北島 正勝

あわら警察署少年警察協働員の皆様には、街頭補導活動や「防犯ポスター・作文コンクール」等を通じた広報啓発など、平素から少年の非行防止・被害防止活動に御尽力賜り、深く感謝申し上げます。

全国における少年非行の現状ですが、減少傾向にあった刑法犯少年の検挙人員、不良行為少年の補導人員が近年増加に転じており、SNSを悪用した、いわゆる「闇バイト」に応募した少年が、特殊詐欺や強盗に悪用して検挙される事案も発生しています。当署管内においても、令和7年の非行少年等の補導人員は前年より増加しました。

また、見ず知らずの相手と容易に連絡を取り合うことができるSNSは、闇バイト募集のように非行の要因となるだけでなく、児童買春等の犯罪や、いじめに悪用されている実態もあり、あわらの子供達も犯罪に巻き込まれる可能性は十分にあります。

こうした情勢の中、少年の健全育成を図るためには、インターネット内の有害な環境を浄化する事が重要であり、少年警察協働員会の皆様とも連携しながらSNS等の安全利用と犯罪に担担させないための広報啓発活動に力を入れていきたいと考えています。

最後に、本年も子ども達の安全・安心と健全育成に向けた活動に御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。



芦原小見守り活動

### 【最優秀賞 小学校5・6年の部】

#### 「防犯について考える」

金津小学校 6年 坪田 一真

ほくのお父さんは警察官です。仕事で今は一緒に住んでいませんが、お休みの日には家に帰ってきます。家にも、テレビのニュースや新聞で全国の事故や事件を確認しています。ほくも一緒に見ているのですが、毎日たくさん事件が起きるので、大変だなと思えます。

警察官の仕事はそれだけではありません。ほくの小学校にも、交通安全教室や防犯教室を開いてくれます。「知らない人に声をかけられてもついて行かないこと」「もし、危ないと思ったら、大きな声で助けを呼ぶこと」を教えてもらいました。ほくはなかなか大きい声で「助けてー」ときけぶことができません。お母さんは、いつでもどんな時でも声を出す練習をしてくるといいます。他にも、ほくが学校に行くとき、無理に急いで道路を渡らなくてもいいことや、変な人が追いかけてきたら、どこでもだれの家でもいいから、インターホンを押して大人の人を呼びなさいと言います。ほくが一年生のころから何千回と聞いていた言葉です。ほくも六年生だし、もう何回も聞いてわかってはいるのに、何でもまだくり返し言うのか聞いてみました。お母さんは、数回聞いただけでは、いざという時に思い出しにくいからだといいました。毎日意識することが大事なんだともいいました。確かにイメージ練習しておけば、頭や体が少し落ち着いて動けるような気がしました。あと、ほくたち子どもは、遊ぶことで頭がいっぱいだから、何回も言わないと、すぐ頭の外に飛んで忘れてしまうからだとお母さんいわれました。友達と遊ぶことが増えて、子ども園のころみたいに、家族がそばにいることは減ってきました。自分のことは自分で守らないといけないんだな、と改めて思いました。



夜ご飯の時、お父さんが住んでいる町のことを話してくれました。そこでは小学生が、すれ違う人たちみんなに積極的にあいさつをしているそうです。登下校の時だけでなく、放課後や、休日でもあいさつをするのはすてきだけど、何がすこいのかわかりませんでした。あいさつを続けると、お互いの顔を覚えて、知り合いになることが、防犯にとって、とても大事なことでお父さんは言いました。町内の人かそうでないかがわかるし、不審者は顔を覚えられたくないから、ささっと行ってしまうそうです。なので、お父さんの住んでいる町内では、不審者の通報が少ないらしいです。さらに、あいさつすることでも家族以外の大人とも知り合いになり、町全体でほくち子どもを守ってくれるそうです。とても心強いなと思います。

防犯は、一人ひとりの心がけで、みんなで助け合う気持ちが大切なんだなと思いました。ほくもはずかしがらずにあいさつをがんばりたいと思います。



芦原中1年 宮川明梨さん



芦原小2年 畑中愛菜さん



金津小6年 藤田咲優里さん



芦原中1年 藪ひまりさん



本荘小5年 曾明乃々架さん



金津小3年ふじ田こうすけさん



心の会話



【最優秀賞 小学校1・2年の部】

「ぼくの気をつけていること」

金津東小学校 2年 坪田 凌弥

ぼくは、家で気をつけていることが三つあります。まず、一つ目は、家のカギをいつもしめることです。ぼくの家ぞくは、さいごに家に入った人がカギをしめます。出かけるときは、大人がしめます。わけは、どろぼうや知らない人が入らないようにしたいからです。

二つ目は、インターホンがなったら、自分であけずに大人に知らせることです。大人は、かならず、がめんをよく見てからドアをあけています。

これも、一つ目と同じわけです。三つ目は、そこに出るときは、大人に言うてから行くことです。

たとえば、ミニトマトの水やりなど、みじかいし間でもきちんと言うようにしています。大人があんしんするし、どこにいるか、なにをしているかを知らせることは、大切だからです。

これからも、この三つのことをまもって、家族といっしょになかよく、たのしくす「したい」と思います。そして、みんなも気をつけて、あわら市がへいわなのらしい、うれしい町にしたいと思いました。家ぞくやみんなが、安心してくらせるといいなと思います。

【最優秀賞 小学校3・4年の部】

「暴力といじめ」

金津小学校 4年 北賢志郎

ぼくは暴力がきらいです。どうしてかと言うと心と体がきずつくからです。暴力はいじめの一つです。心と体がきずつくことで、不登校やひきこもりの原因になります。そのせいで、友達とも会えなくなるし、勉強もおくれてしまいます。

どうしていじめは起きるのでしょうか？それはいじめめるのが楽しいと思っている人がいるからです。いじめめる人は、「いたいからやめて」と伝えてもやめません。相手の気持ちはむしって考えていないからです。なぜきずつけたらいためつけるのが楽しいのかは、ぼくには理かできません。ぼくは自分がいたい思いをした時に、とてもつらいしいやだったから、周りの人には同じ思いをしてほしくないと思います。

暴力、いじめをなくそうとしても、なかなかなりません。なのでぼくは、自分の身を守るためにはどうしたらいいのかを考えることにしました。身を守る方法は三つあります。

一つ目は「行かない」ということです。暴力やいじめにあいそうなるへは行かないようにして、相手に近づかないことで身を守ることが出来ます。

二つ目は「逃げる」ということです。どんなに注意しても暴力やいじめにあってしまうことがあります。あつてしまったら、その場からすばやく逃げましょう。

三つ目は「声を出す」ということです。いじめに對してどうどうとした度ではつきり「やめる」と言いましよう。暴力をくわえられそうになったら大声で助けをよびましょう。いじめられていることを親や先生にすべて話しましょう。

「行かない」とは悪いことではありません。「逃げる」とははずかしいことではありません。「声を出す」ことははずかしいことではありません。暴力やいじめをほうくくするとは当たり前のことですが、とてもむずかしいことだと思えます。きつと周りの人のめいわくになると思っているからです。でもめいわくではありません。人に伝えなにかぎり、周りの人に気づいてくれませんか。なのでゆうきを出して周りの人をたよります。そうすることで自分の心と体を守ることが出来るしぼくは思います。



『少年の立ち直りを支える現場を訪ねて』

あわら警察署少年警察協助力員 齊藤 洋一

十二月一日から二日にかけて、あわら警察署少年警察協助力員と青少年育成あわら市民会議は合同で、大阪府立修徳学院を訪問し、研修視察を行いました。大阪府立修徳学院は、非行に至った少年や、家庭環境などの理由により生活指導や支援を必要とする児童を対象に、社会復帰と自立を目指した支援を行っている施設です。学院では、規則正しい生活を基盤に、学習指導や作業訓練、職業指導などを通じて、社会性や自立心を育む取り組みが行われています。視察では、施設の概要や日常生活の様子について説明を受けることも、

・少人数体制によるきめ細やかな指導  
・少年一人ひとりの特性や課題に応じた個別支援  
・生活指導だけでなく、心のケアや将来を見据えた教育を重視している点などについて、具体的なお話を伺いました。

職員の方々が、少年たちに温かく、そして根気強く寄り添いながら、家庭や地域、関係機関と連携して立ち直りを支えている姿は、大変印象的でした。支援には時間と労力を要しますが、人との信頼関係を大切にしたい関わりが、少年の成長につながっていることを改めて実感しました。

今回の研修視察で得た学びを、今後の少年警察協助力員活動や青少年健全育成、非行防止活動に活かし、地域全体で青少年を見守り、支えていく取り組みを進めていきたいと思います。

編集後記

あわら警察署少年警察協助力員 小林 純一

北陸新幹線が敦賀駅まで開業し、今年で三年目を迎える来福する人が増えてきました。首都圏が近くなり人の往来が増えると共に「電話」や「SNS」等による特殊詐欺犯罪が年々増加しています。

また、少年による闇バイト等も深刻化しており、これまで以上に家庭や地域全体で少年との対話を増やし、未来ある少年を見守る事が大切です。少年警察協助力員も少年の健全、育成の為に街頭活動、啓発活動を続けて参りたいと思ひます。地域の皆様には引き続き「理解」と「協力」をお願い致します。



- あわら地区防犯ポスター作文コンクール  
令和七年度 防犯ポスターの部入賞作品
- 「小学校1・2年の部」  
最優秀賞（あわら市長賞）  
金津東小学校2年 山口 音真  
あわら地区防犯連絡所協議会長賞  
芦原小学校2年 畑中 愛菜
- 「小学校3・4年の部」  
最優秀賞（あわら市長賞）  
芦原小学校4年 佐々木 陽翔  
福井県金融機関防犯協会あわら支部長賞  
金津小学校3年 ふじ田 こうすけ

- 「中学生の部」  
最優秀賞（あわら警察署長賞）  
芦原中学校2年 川端 里奈  
あわら警察署少年警察協助力員会長賞  
芦原中学校2年 前田 ひびき
- 「小学校5・6年の部」  
最優秀賞（あわら警察署長賞）  
金津小学校6年 坪田 一真  
ゆうゆうと輝く市民の会長賞  
金津東小学校5年 三谷 愛織